

『Mind Charging』

第 57 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 6 月 16 日

ルイーザ・メイ・オルコットの名言



There is always light behind the clouds.

雲の向こうは、いつも青空。

19 世紀後半のアメリカを舞台に、ピューリタンであるマーチ家の四人姉妹を描いた物語として発表した自伝的小説『若草物語(1868 年)』で知られています。この物語には続篇があって、『続 若草物語』『第三若草物語』『第四若草物語』があり、姉妹の成人・結婚やその後の生活が描かれています。まるで現代ドラマのシーズンのようですね。

飛行機に乗っている時に、雲の中を潜り抜けていく時は機体が大きく揺れて『落ちるかも・・・』と、命の危険を感じたり、周りを雲に覆われてしまい、何も見えなくて『せつかく高いところから綺麗な景色を見渡せるはずなのに・・・』と、ガッカリしたり、『雷が当たったらどうしよう・・・』と、不安になったりしますが、雲よりも高度が上がった瞬間に、太陽が普段より近くに見え、雲に当たる光が反射して辺りが幻想的に輝くあの景色を見ると、この言葉を感動と共に実感します。

これは人生と同じではないでしょうか。人は必ず成長していくものですし、様々な経験を積んでいくことで視野も広がっていきます。しかし、その領域に達するまでには様々な『壁』にぶつかり、悩んだり恐れたりと、気分が不安定になることがあります。また、人生や様々な物事は全て『深い』ので、壁を乗り越えても次の壁がやってきます。大変ですが、ひとつずつ乗り越えていくほかありません。このように述べてしまうと『人生って大変だな』と、モチベーションが落ちてしまいがちですが、一つの壁を乗り越え、成果や手応えを感じた瞬間の喜びは何物にも代えがたいものがあります。その喜びをパワーに変えて次に立ち上がる壁に挑んでいくのです。最高の青空を期待しながら。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ルイーザ・メイ・オルコット(Louisa May Alcott, 1832 年 11 月 29 日 - 1888 年 3 月 6 日)は、アメリカの小説家。1868 年に書かれた『若草物語』(Little Women)で知られる。ルイーザ・メイ・オルコットは、著名な超越主義者(Transcendentalist)であるエイモス・ブロンソン・オルコット(Amos Bronson Alcott)とアビー・メイ(Abby May)の娘であり、現在のペンシルベニア州フィラデルフィアの一部であるジャーマンタウン(Germantown)に生まれた。一家は 1844 年にボストンへ移住し、そこで彼女の父は実験学校を設立し、またラルフ・ウォルドー・エマソンやヘンリー・デイヴィッド・ソローらと共に超越主義者クラブに参加している。(Wikipedia 参照)